

小ギクの需要期安定出荷技術の普及

試験研究課題

農林水産技術総合センター 企画調整・経営支援部 九村 俊幸

- キクの無加温施設・電照による年末ピッタリ低コスト出荷技術(県)(H20)
- 小ギクつぼみ切り花の開花処理技術(県)(H20)
- 小ギクの一斉機械収穫・調整システムの開発(国庫)(H20~22)
- 収穫後開花調節による特定日開花技術(国庫)(H22~24)
- 農産物直売所出荷を対象とした小ギク及びユリつぼみ切り花の収穫後開花調節による特定日出荷技術(県)(H24)

●目的

盆、彼岸、年末の需要期(物日)に小ギクを安定出荷

●実施技術(県研究員による開発技術)

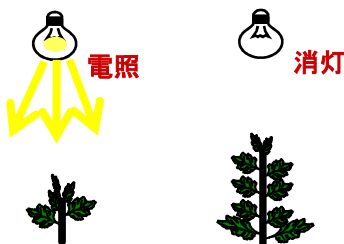
- ①電球型蛍光灯による電照
- ②収穫機で一斉収穫
- ③蕾切り花の開花液処理

高温年でも物日に開花
収穫作業も大幅に軽減

高単価
高品質
効率化

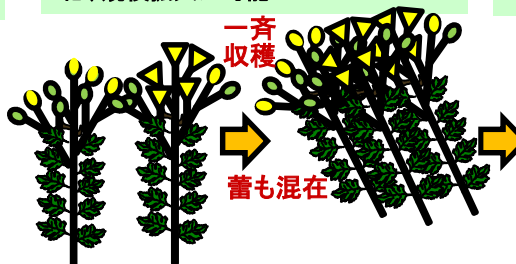
①電球型蛍光灯による電照

小ギクの出荷予定50~60日まで夜間電照で暗期中断処理することにより開花日を調節することが可能



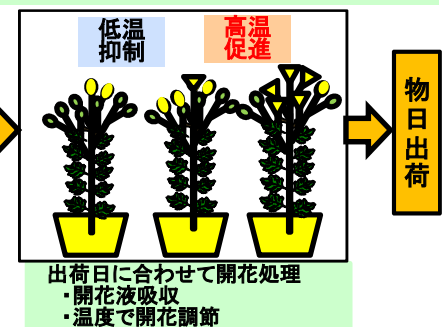
②収穫機で一斉収穫

小ギク専用の収穫機による一斉収穫で作業時間を大幅に短縮でき省力化、規模拡大が可能



③蕾切り花の開花液処理

一斉収穫で蕾が混在した切り花を開花液に吸収させ、冷蔵庫等で開花調節することで小ギクの物日出荷が可能



現場への普及

新品種・新技術活用型産地育成支援事業(産地ブランド発掘事業)

●実施場所・実証内容

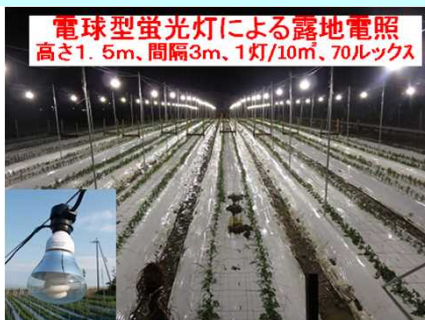
【平成27年度】実証場所:豊岡、朝来、丹波、北淡路の4地区

現地内容:開花調整による盆出荷

【平成28年度】実証場所:集落営農組織(西播)

現地内容:開花調整による彼岸・正月出荷

●事業目標【平成29年度】生産者、市場関係者、関係機関の連携によるコンソーシアムの形成



出荷時期
7月中旬~7月下旬
8月上旬

平均単価
約35円/本(20~50円/本)
20円アップ
約55円/本(40~70円/本)

収益 220万円/10a(約80万円/10a増)
費用 167万円/10a(約33万円/10a増)
所得 53万円/10a(約47万円/10a増)
(費用は労賃53万円を含む)

今後の取組

- 小ギク振興の方策【平成32年度】
定時・定質・定量・定額出荷の実現
40ha栽培面積の実現(現状23ha)
機械化体系実証で集落営農等の小ギク産地形成

集落営農組織1haの取組
所得530万円(米直売19万円)